

がついていますから、これに最も近い小さな整数 9 をとって、9 人につき 1 人を抽出することを考えます。

このとき、この 9 を、**抽出間隔**（インターバル）といいます。次に、1～9 の数字の中から、乱数表によって 1 つの数字を選びます。この数字を**スタートナンバー**といいます。この例で、スタートナンバーが 6 と決まったとします。このとき、1 番から 15013 番まで番号づけられた生徒の中から、まず 6 番を抽出し、これを出発点として、以下間隔 9 ごとの番号を抽出します。これを図で

$$(15013 \div 9 = 1668.11 \dots\dots \quad 1668 \times 9 = 15012 \quad)$$

1	,	2	,	3	,	4	,	5		6	,	7	,	8	,	9		↑
10	,	11	,	12	,	13	,	14		15	,	16	,	17	,	18		1668
.....																		
15004	,	15005	,	15006	,	15007	,	15008		15009		15010	,	15011	,	15012		↓
15013																		

示しますと、上の図のように、数字を並べたとき、番号 6 の属する数字のグループが抽出されたこととなります。

この場合、抽出数 1600 人のところ、1668 人が抽出されてしまったのですが、これで特に不都合のないときには、このまま、大きさ 1668 の標本として用いればよいでしょうし、ちょうど 1600 にしたいときには、この 1668 人の中から、68 人を乱数表によってぬきだし、除くようにします。

この（方法 4）は、系統的抽出法または等間隔抽出法といわれ、実用上よく用いられます。この方法の利点は、抽出の作業がきわめて簡単であることで、この例のように、抽出数が多いときには、この方法によらなければ、抽出作業は不可能に近いでしょう。

なお、この抽出法を用いる場合には、次のことに注意して用いるようにします。それは、母集団の要素が、ある一定の規則のもとに並んでいないことを確かめてから、この方法で抽出する、ということです。そうでないと、もしも、抽出間隔と、母集団の要素の規則的な配列の周期とが一致しているような場合には、得られた標本は、みな同じような性質を持った片寄ったものになってしまうことがあるからです。